

令和4年10月4日(火)

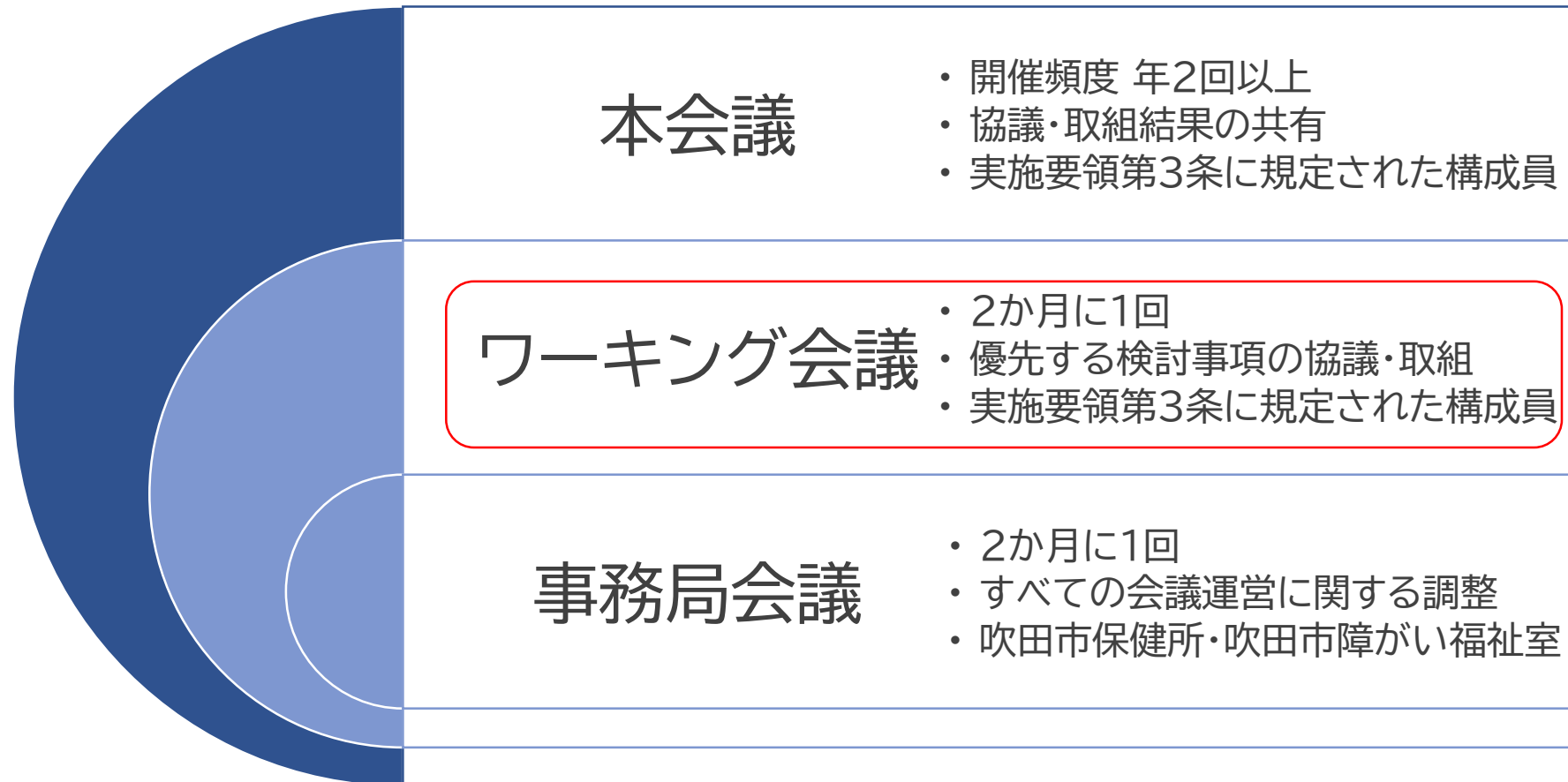
令和4年度第1回吹田市地域自立支援協議会全体会議

吹田市精神障がいにも対応した 地域包括ケアシステム専門部会の 実施状況について

吹田市 福祉部 障がい福祉室 基幹担当

専門部会の構成

- 専門部会は3つの会議から構成されています。



令和4年度の取組

➤ 年間の会議開催予定（●＝実施済み ○＝実施予定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
（年2回以上） 本会議				● 7/29							○	
（原則奇数月） ワーキング会議		● 5/18	● 6/27				○	○		○		○
（原則偶数月） 運営事務局会議	● 4/21		● 6/8	● 7/21		● 9/21	○		○		○	

R4.9月時点

吹田市の優先する協議内容

1. 普及啓発に係る事項
2. 精神障害者の家族支援に係る事項
3. 精神障害者の住まいの確保支援に係る事項
4. ピアサポートの活用に係る事項
5. アウトリーチ支援に係る事項
6. 措置入院者及び緊急措置入院者の退院後の医療等の継続支援に係る事項
7. 構築推進サポーターの活用に係る事項
8. 精神医療相談に係る事項
9. 医療連携体制の構築に係る事項
10. 精神障害者の地域移行・地域定着職員に対する研修に係る事項
11. 入院中の精神障害者の地域生活支援に係る事項
12. 地域包括ケアシステムの構築状況の評価に係る事項
13. その他(地域包括ケアシステムの構築に資する事項)

ワーキング会議について

ワーキング会議 とは

- ・吹田市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム専門部会内の会議体
- ・吹田市で優先する検討事項についての協議を行う
- ・具体的な取り組みを行う

令和4年度の 会議の目的

◆協議

- ・優先する検討事項のうち
「**入院中の精神障がい者の地域生活支援にかかる事項**」についての協議

◆具体的な取り組み

- ・長期入院患者が退院を目指そうとする時におこる困りごとや課題の抽出
- ・必要な資源の検討

実施方法

榎坂病院提供の事例を用いた事例検討方式

参加機関

- ・会議体構成機関内の6機関および事務局
- ・榎坂病院、シード、エスペランサ、片山・岸部障がい者相談支援センター、ハントン訪問看護ステーション、サポートセンターフルハウス、生活困窮者自立支援センター

ワーキング会議実施報告

【吹田市の優先する取組事項】「入院中の精神障がい者の地域生活支援にかかる事項」

【目的】精神科病院入院患者の退院を想定した事例検討を行うことで、長期入院者の地域移行のための課題を抽出する

紹介された事例の概要

【本人・家族】

- ・思春期年齢に発症し、入院が長期化している
- ・幻覚症状はあるが、状態は落ち着いている。
- ・病識の有無は不明だが、看護師の声掛けで服薬
- ・トラブルはない
- ・コミュニケーションをとることへの努力姿勢あり
- ・手持ち金の中でやりくりするのは苦手
- ・社会生活や働くことへのイメージがないようす

【病院】

- ・外出同行を検討したいが、行動援護の対象者要件に該当せず
- ・家族は高齢化等で、こまめな付き添いは困難

事例から出された、必要な意見・見解

- ・入院中から地域の支援者をつながる手立てが必要。
- ・患者さんは退院したい思いだけでなく、退院に対する不安やこわさも持っている。
- ・具体的な地域移行の動きに至る前の、地域移行の前段階の支援が必要。
- ・日用品の買い物のような気軽な外出に同行できる市独自の仕組みがあるとよい。
一緒に店舗に行くことで、地域生活のイメージを持ってもらう機会になる。
- ・入院時年齢と入院年数によって生活のスキル、地域生活の具体的なイメージの程度は異なる。発症や入院時年齢が低く、入院が長期化するほどに力は低下する。
- ・地域生活のいろはを伝えることも含めて支援する事業所があれば退院は早まる。
- ・精神障がいのグループホームは夜間の支援体制が充足ではない場合もある。
- ・地域では精神障がい者が身体科受診する際にハードルがある。

感想

【病院】

- ・入院が長引くことでのデメリットを改めて確認した。
- ・早く動いていきたいと思った。
- ・1人の患者についてじっくり考える機会が貴重だった。
- ・聞いた社会資源について周知したい。

【地域の参加者】

- ・仕組み作りを行政だけでなく、みんなで考えていけるといい。
- ・サービスの仕組みだけではなく、有機的に連携するところにHPも加わって、吹田市版のいい仕組みができればと思う。
- ・話し合える場があるのが良かった。

まとめ

精神科病院からの地域移行の推進にかかる課題

①入院中から地域移行に向けて関わる支援

- ・入院中から、地域生活についての具体的なイメージをもってもらおう。
気軽な外出に支援者が同行し、地域を知ってもらうこと等。
- ・入院中から、地域の支援者とつながれる仕組み
- ・個人個人の入院開始年齢や入院期間、生活スキルに個別に合わせて
いろはを丁寧に教えてくれる関わり
- ・入院中に関わった人が、地域でも関わってくれる安心感

②退院後に地域生活を続けるための支援

- ・精神障がい者が身体科医療機関に受診しやすくする仕組み
- ・入院中には必要でなかった生活スキルをはじめとする、地域生活の
こまごまとした手順やお作法を身に着ける機会、そのための支援。

優先する
4項目
のうち
2つ



地域の支援体制が整っていなかったり、なじむ過程への支援がないと、退院しても地域生活上で問題が生じて、地域生活を続けることができなくなる。

参考

【同会議で実施したアンケートの意見の抜粋】

- ・特定の事業所だけでなく、多くの事業所に関わってもらえる仕組みが必要ではないか。
- ・退院支援を受けた事業所に対する加算や補助、支援方法の研修が必要
- ・グループホームは基準が厳しく、グループホームありきでは退院が進みにくい。
- ・介護保険年齢になると、サービスや制度に差異が生じる
- ・サービス利用による身近な買い物等を経て段階的に地域に出ていけるとよいのではないか。
- ・本人の意思決定支援に対する啓発が必要ではないか
- ・入院直後から地域の支援者が関わるようになれば。
- ・医療と地域の支援の隙間をうめるようなことができれば。
- ・地域住民の精神障がい者への理解が進むことが、安心した生活につながるのではないか。
- ・「どうすれば吹田で安心して暮らせるか」という俯瞰的視点

★地域移行をすすめるには、入院中の地域移行支援事業を利用する前の段階からの支援が必要

★地域づくり、整備も同時にすすめていく必要がある